

記念物
【天然記念物】カラスバト
*Columba janthina*指定年月日／1971（昭和46）年5月19日
所在地／地域を定めず指定

撮影：嵩原建二

カラスバトは日本のハトの中では最もからだが大きく、全体に黒っぽい色をして、カラスに似ている所からこの名が付けられた。赤い足と鳴き声に特徴があり、光の具合によって羽の色が鮮やかな金属光沢を帯びる。特に鳴き声は「ウウー、ウウー」と押し殺したような太い声で鳴き、それが牛に似ていることから「ウシバト」とも呼ばれている。

カラスバトの亜種として、かつてはオガサワラカラスバト、リュウキュウカラスバトがいたが、前者は1889（明治22）年、後者は1936（昭和11）年を最後に絶滅した。現在は

カラスバト、アカガシラカラスバト、ヨナクニカラスバトの3亜種が日本に生息している。

八重山諸島にはヨナクニカラスバトが生息している。その名のとおり、かつては与那国島でよく見ることが出来たが、森林伐採が進み、生息環境が狭められたためか、見られる数が減少している。石垣島、西表島においても減少が懸念されており、大切に保護していかなければならない。

記念物
【天然記念物】セマルハコガメ
*Cuara flavomarginata*指定年月日／1972（昭和47）年5月15日
所在地／地域を定めず指定

撮影：渡辺賢一

セマルハコガメは石垣島、西表島、台湾及び中国南部に分布する陸生のカメである。甲羅の長さは13～16 cmで紋様が目立ち、全体に暗褐色だが首のあたりが黄色味を帯びている。腹部の甲羅は中央あたりから2つに折れ、ちょうつがい繋げたようになっており、外敵が近づくと頭、手足、尾を全て甲羅の中へ引込めてしまい、ちょうど箱に納めたような形になることから、「箱亀」の名が付けられた。

地元では俗にヤマガミー（山亀）といい、水中を得意とするミナミイシガメをミジガミー（水亀）と呼んで区別していた。その名のとおり森林の周囲や谷川のほとり、マングローブの

近くなどに棲み、普段は倒木や落葉の下、岩石のすきまなどに潜んでいるが、夜間や雨の日などには這い出してきて、ミミズ、カタツムリ、木の実などを活発に採食する。近年、道路脇のコンクリート側溝に落ちて死んだり、舗装された農道でロードキルに遭うことが増えている。